

継続して行っている。またそれに併行して、目録原稿作成をしている。薬師寺は、東京大学史料編纂所と共同で調査しているが、木箱28箱のうち、第26、27函を除いて調査作成を終えた。次には、冊子本が大半を占める筆笥分、整理用紙箱分に取りかかることになる。内容については、調査研究報告の欄を参照されたい。

法隆寺では、天函、リ函の未撮影分につき、写真撮影をした。これで法隆寺文書の片仮名箱（卷子本）と甲乙等箱（冊子本）についてはすべて撮影したことになる。また寺側で行っている、まだ目録化されていない文書の調査に関係して、中世分の整理に協力をした。また『昭和資財帳』収録の目録記載の中世文書につき釈文を作成中である。

さらに東大寺図書館には、多くは江戸時代のものであるが、中世文書もかなり含む100箱以上の文書記録類が所蔵されている。それらの資料につき、整理、調査を計画しており、函号をつける作業を行った。

その他文化庁関係調査で醍醐寺聖教、冷泉家典籍、科研関係調査で西大寺絵図・文書、仁和寺御経蔵聖教、他機関調査に参加するかたちで春日大社記録、寺からの調査協力依頼で石山寺知足庵聖教の調査に参加した。

また奈良県教委が実施している県下所在の中国朝鮮版経調査にも参加している。なお版経で既指定の一切経など大部なものには、詳細な目録が作成されていないこともあり、改めて詳しい資料のデータを収集する必要性が感じられた。

書跡資料料紙原本の調査研究関係では、反故紙を利用して、いろいろな製法によって宿紙のサンプルを製作した。反故紙のみを漉き返すだけでは、現存する宿紙までの濃さには到底ならないので、相当量の墨汁を加えたり、柿渋で定着性を強めることなどの加工が行われたであろうことが共通認識となった。（緩村 宏／歴史研究室）

書跡資料の調査と研究

研究所所蔵の北浦定政関係資料につき、資料管理、活用の意味から必要であるために、目録番号順に写真撮影を行った。また一部資料の釈読を開始した。

寺社所蔵資料調査関係では、興福寺で、『興福寺典籍文書目録 第三巻』に収録予定の分につき、大部な大般若経箱を除いては調査作成は終了した。なお写真撮影を